

# 産学タッグ 医療に新風



東京理科大発のベンチャー企業「イノフィス」が開発した「マッスルスーツ」(東京理科大葛飾キャンパスで)＝横山就平撮影

## 「マッスルスーツ」腰痛めず

### \* 東京

東京理科大葛飾キャンパス(東京都葛飾区)内にあり、同大の教授らが起こしたベンチャー企業「イノフィス」。

「マッスルスーツ」を昨年11月から本格的に販売し始めた。人工筋肉の役割を果たす4本のゴムチューブが付いており、かがんだ状態で背中のチューブに空気を注入する。横方向に膨らむ一方、縦方向に縮み、チューブと腰をつなぐワイヤが引っ張

られ、自然に上体が起きあがる仕組みだ。開発した同大の小林宏教授(48)は「労働者の高齢化が進む中、介護や農業、工場などあらゆる場面

のように背負い、腰に負担をあまりかけずに重い物を持ち上げられる筋力補助器具

縦方向に縮み、チューブと腰をつなぐワイヤが引っ張

高齢化を背景に医療関連の市場が拡大する中、中小の機械メーカーが医療系の大学と連携し、医療機器の開発・製造に参入する動きが相次いでいる。大学が持つ医療現場のニーズと、メーカーのものづくりの技術を組み合わせ、最新の医療機器を作り出している。

経済 全国便

で活用できる」と期待する。金属製品メーカーの菊池製作所(東京都八王子市)が製造を担う。既に介護事業者などに試験販売し、好評を得ているほか、製品に関する問い合わせも多いという。より軽量化したタイプも販売する予定だ。(東京経済部 蔵本早織)